JAPAN URBAN DESIGN INSTITUTE
都市環境デザイン会議
東京都文京区本郷2-35-10
本郷瀬川ビル 〒113-0033
TELEPHONE 03-3812-6664
FACSIMILE 03-3812-6828

JUDI
067
20.JULY 2002
特集
人と場の活性化ー岐阜市を事例として
発行者:都市環境デザイン会議 広報・出版委員会

●特集：人と場の活性化ー岐阜市を事例として
1．岐阜市の都市景観…… 1
2．人と場の活性化:岐阜市の駅周辺整備 … 5
3．ぎふまちづくりセンター…… 8
4．岐阜を自然と文化の深みのあるまちに… 9
●代表幹事会報告……14
●委員会活動報告……15
●事務局より……18

特集：人と場の活性化ー岐阜市を事例として

JUDI第１２期の共通テーマを何にするかというディスカッションの中から出てきたのが「人と場の活性化」である。どうも最近の日本は元気がなさすぎるのではないか。この閉塞感を打ち破るためにも、いま元気があるまち、あるいは面白い動きをしているまちを取り上げて、特集を組んでみたらどうかということから、このテーマが浮上した。企画案の中では、各ブロックの会員や地元自治体、市民、JUDIの他の委員会と協力して、対象都市でまち歩きやシンポジウム等も絡めながら、かつ委員が楽しみながら紙面づくりをしようではないか、という意見が出てきた。第１回目に取り上げることになった岐阜市は、中心市街地の衰退や基幹産業であるアパレル業界の不振等の問題を抱えながらも、駅周辺整備をめぐって市民活動が活発化したり、市民・行政・企業と大学の連携によるまちづくりセンターが活動を開始したりという新しい動きが見られるようになっている。今回は時間的制約があったため、シンポジウムまではできなかったが、行政の協力も得て紙面をつくることができた。
(編集担当：白濱力　中嶋猛夫　松村みち子)

特集　1

岐阜市の都市景観

林　英光
HAYASHI HIDEAKI
愛知県立芸術大学

「窓から金華山を仰ぎ観る街」

岐阜は、御存じのとおり、日本のほぼ中央に位置し古来東西の要衝であった。植性的にも落葉広葉樹林と照葉樹林の重なるところで、遡ると縄文ゾーンと弥生ゾーン、関西と関東の狭間であり、幾つもの街道の交叉する東西南北文化の十字路であった。

信長が天下布武の拠点とするだけの理由も頷ける場所である。

それは何よりその景観に顕われている。

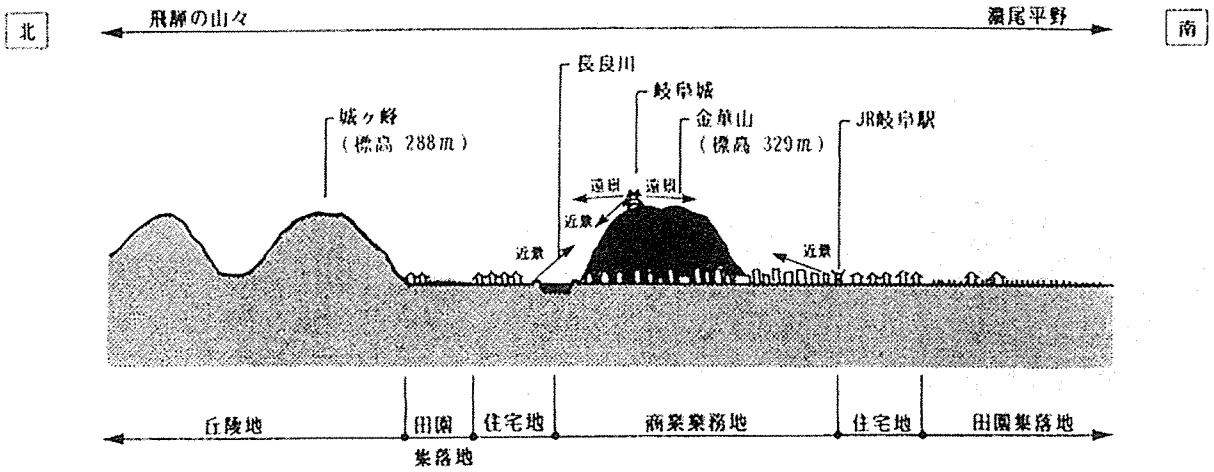
木曽三川の一つ、雄大で優雅に蛇行する長良川と、遥か東西南北を見渡せる岐阜城のある標高329mの急峻な金華山に拠っている特異な景観の都市である。鵜飼いと鮎、桜鱒の棲む清流と温泉。椎、楠など常緑樹、と落葉樹の豊かな山塊のもたらす緑と水の文化。日本の北と南の薬草のどちらも採集できる所であり、煙りの出る煙突のない産業と匠の街でもあることはあまり知られていない。

豊かな水系は景観のみならず、食文化をも育んできた。江戸から濃尾地震以降の古民家も多く、市の重要建築物の指定は１９件、店舗、オフィス、カフェなどとしても利用されている。ふと店先から覗くとつい中に入ってみたくなる奥行の深い京風の町家も多くあり、路地裏に懐かしい風情がそこかしこに存在し、小さな水路や河川敷も癒しの風景を残している。戦災から逃れた社寺、古民家、町並みの保存修復と共に、景観に対する市民、行政の努力と前向きな姿勢が見てとれる。また改築、新築の手法も、ＲＣの建物、屋根の形、素材、色彩などに努力工夫が見られ、家々の窓から金華山を望むのが都市の暗黙のコンセプトになっているのが面白い、。しかし今それを妨げる高層マンションの建設には市民も行政も大いにその対応に悩まされているようである。

「都市景観に必要な三つのレイヤー」

都市景観には二つの基本になるレイヤーが必要である。一つは現在のありのままの姿であり、もう一つは偉大なる過去の歴史と記憶である。変哲もないものがその云わ

景観構造断面模式図



れを知ると、とたんに大きく風景のイメージを膨らませることになる。更にもう一つは未来のレイヤーで、計画や予想される姿が作用して人々の心に景観イメージを創りあげるのである。

岐阜市の場合、この三つの要素を重ね合わせ表現し情報伝達する時にある。

山と川と平野の都市と言っても良いシンプルなランドスケープを持ちながら、それとは裏腹な現在の複雑で分かりにくい都市形成、景観構成に問題と矛盾を感じる。

全市域に散らばる社寺と、官庁、商業地区、JR,私鉄の駅の位置、私鉄の路面電車の関係、中山道と他の街道筋と幹線道路の関係、ランドマークとなる構築物が希薄であり、はじめての訪問者はかなり戸惑うと思う。一目で分かる単純な都市の骨格が魅力的なガイドマップやサイン、街路名などで示される必要を感じる。都市全体の過去、現在、未来の姿をもっと積極的に、そして様々な地区の個性をより明確に打ち出していくことで他都市にないより魅力的な岐阜らしい都市景観を育てることが出来ると思う。

「岐阜市景観形成の取り組み」

市の取り組んでいる景観行政は少しづつ成果をあげつつある。同時に都市景観の骨格づくりと、細部に渡る取り組みが始まっている。

岐阜市都市景観条例を平成７年に制定し、都市景観形成基本計画は、景観要素を、自然系、歴史系　都市系　観光系の要素とし、そのあり方の理念のもとに市民意識．事業者意識の向上　先導的役割としての公共事業　諸制度の活用を推進方策とし、ストラクチャープラン、道路　河川　住宅地　商業・業務地　工業地　田園集落　公園緑地　歴史的　眺望等の景観形成計画がある。

さらに重要地域の指定として二つのシンボル的なゾーン長良川．金華山地区、駅周辺．柳ヶ瀬地区に取り組んでいる。岐阜発祥の金華山と城下町の歴史的町並み、鵜飼いの船着き場に接する川原地区の景観形成基準づくりは市民主体で成果をあげ、長良川をはさんで北に観光、アウトドア、コンベンションと国際会議観光都市を目指す中心地域として充実しつつある。

JR岐阜駅地区はアクティブＧの楽市楽座、アパレル、匠工房など、ハートフルスクエアーは、図書館、体育館、生涯学習などの場としてユニークな機能と風情をつくり始め、日本一の駅前広場を目指しながら、柳ヶ瀬地区へ真直ぐ続く繊維問屋街の再開発計画も始まっている。

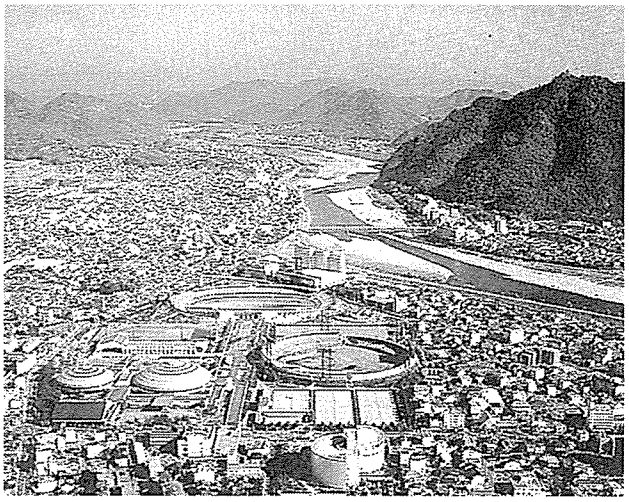
線的な整備では既に住民主体の玉宮通りまちづくり協定のモールは、延長２８０m,幅６mと狭いながらセットバックと半地下の試みが、ファッショナブルな街の先駆けとして市民権を得ている。

枝垂れ桜並木の伊奈波神社の参道、槻の生い茂る原宿のような本郷町通り、市のシンボルツリーつぶら椎を刈り込んだ金華橋通りはアメリカ楓なども手入れされ、豊かな金華山の緑を引き立たせ、都心部の景観形成に役立っている。

また岐阜市都市美創出賞は昭和56年から平成8年まで124件、平成９年からの都市景観賞は25件になる。表彰や助成、そし

て、あかりフェスタGIFU、フラッグアート、岐阜城パノラマ夜景、長良川の花火と１３００年の鵜飼い絵巻、柳ヶ瀬ストリートメッセージなど様々なイベントが四季を通じて都市景観を活き活きさせる媒体として働いている。

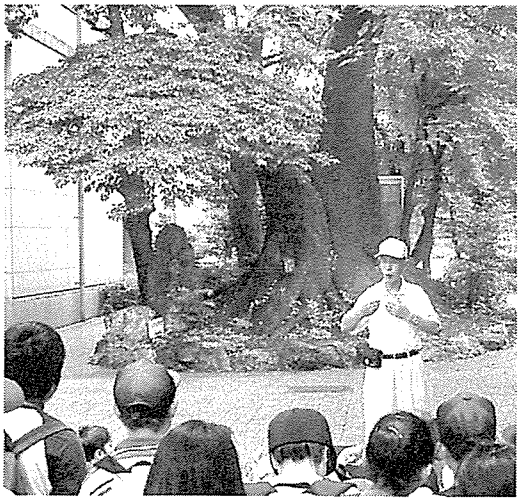
３年前ドイツで聞いた５０万人を越えたら都市ではないと言う話を思い出した。岐阜は４０万人、ヒューマンスケールの程良い大きさの都市である。これ以上の無駄なスプロール化を防ぎ、田園を大切にするならば、我が国有数の魅力に富んだ都市となるだろう。


メモリアルセンターと金華山

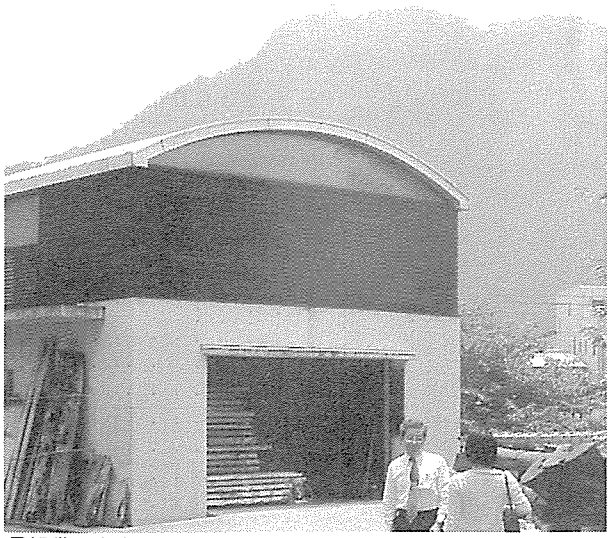
岐阜駅南口

都心部の金華橋通り

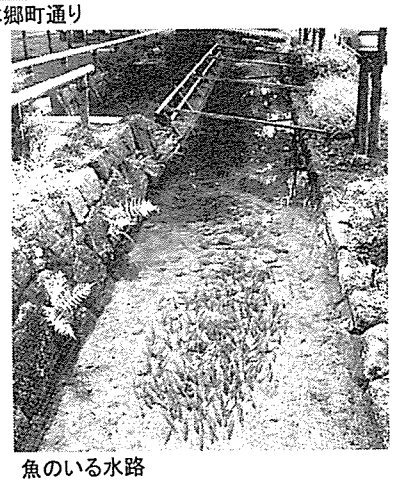
河川敷から見た町家の裏側


公園内での授業風景

本郷町通り

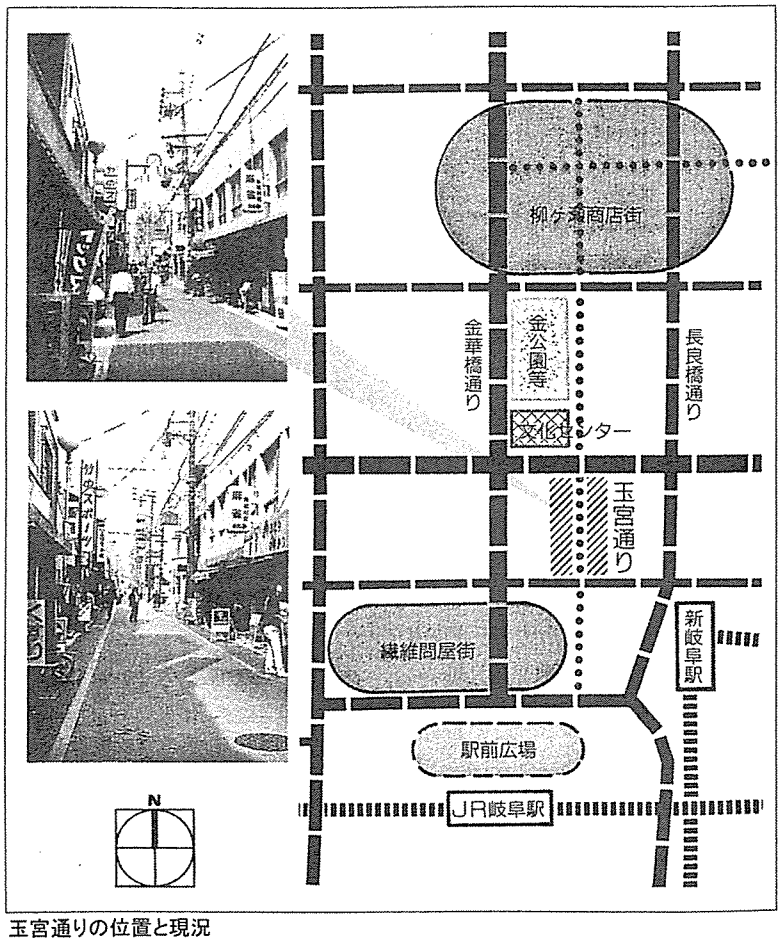


景観賞の倉庫と岐阜城

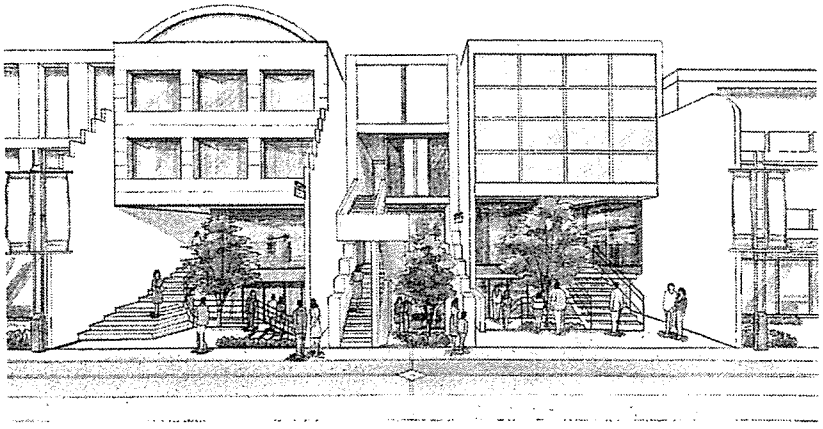


魚のいる水路

水路風景



玉宮通りの位置と現況



玉宮通りのイメージ図（パンフレットより）

特集 2

人と場の活性化：岐阜市の駅周辺整備

岸井　隆幸
KISHII TAKAYUKI
日本大学理工学部土木工学科

筆者は岐阜市の中心市街地、駅周辺地域、北口駅前広場等の整備計画立案に調査委員会のメンバーとして参画をしてきた。本稿ではJR岐阜駅前北口駅前広場整備を中心とした「人と場の活性化」について状況を紹介する。

＜岐阜市のプロフィール＞

岐阜市は岐阜県の県庁所在都市で県人口の約19%、40万人の人口を抱えているが、実は名古屋都心から30ｋｍ、JR東海道本線の快速を利用すれば20分弱のところにある。

市人口のピークは1985年（昭和60年）でありその後は微減の傾向にある。また、昭和40年代より、郊外部での人口増加と中心部での人口減少が進み、中心市街地の人口シェアは昭和35年の50.2%から平成9年には20.4%まで激減している。賑わいの中心は1966年美川憲一さんの歌で全国に知られた「柳ヶ瀬」であり、アーケードを備えた商店・飲食店が面的に広がっているが、近年は大規模小売店の撤退等やや陰りが見えている。

JR駅北隣接部には衣料品の卸問屋街が広がり、今でも繊維で栄えた街の香りを感じることができる。

＜人の流れの現状＞

鉄道はJR東海道本線及び高山線、名鉄名古屋本線、揖斐線、美濃町線があり、名鉄岐阜市内線、田神線の路面電車も走っているが、JR東海道本線と名鉄名古屋本線は名古屋まで競合する関係にある。加えてJR岐阜駅と名鉄新岐阜駅は約300ｍ離れており、両鉄道の接続関係が良いとはいえない。乗降客は近年JRの伸びが著しく、柳ヶ瀬の玄関口である名鉄新岐阜駅の乗降客数は平成7-9年の間にJRに抜かされてしまった。

JR岐阜駅周辺では連続立体交差事業が完成し、JRは現在地上3階部分を走行しており、新しく生まれた高架下の床利用がようやく本格化したところである。

中京圏の都市らしく自動車保有率も高く、自動車依存度も高い。結果として路面電車の乗客は減少の一途で平成8年には昭和50年の半分以下になってしまっている。バスは市営バス、岐阜バス、名鉄バスの3つの経営主体で運営されているが、これも利用者は年々減少を続け分担率はこの20年間で半減している。しかしそれでも現在でも駅前通や国道では一日600本以上の運行がある。

＜駅周辺のプロジェクト＞

岐阜市は県都として、また都市圏人口100万人として地方中核都市としての役割を果たそうとしているが、そうはいっても中心市街地の活力低下は否めない。都心に居住する人口が減少すると共に郊外に大規模な店舗が進出して中心部の店舗の減少が著しい。駅北側の卸売街も販売額も落ち込んでおり、柳ヶ瀬地区も含めて中心市街地の活性化が大きな話題となっている。もちろん手をこまねいているわけではなく、JR駅の西側では国鉄跡地の開発（香蘭地区）が進められているし、JRの連続立体交差事業に併せて北側での市街地再開発事業、東側の区画整理計画などJR駅周辺部では様々なプロジェクトが企画されている。（図－1参照）

その中でも今はJR北口の駅前広場整備が最も大きな話題となっている。JR岐阜駅南口の駅前広場は約7300m²で整備済みであるが、北側は29560ｍ²という大きな面積が予定されておりこれから整備が進められる。今はまだステーションデパートが計画広場の用地中央に存在しているためその広さを実感できないが、これが撤去されると非常に大きな駅前広場空間が出現する。

＜人と場の活性化施設としての駅前広場整備＞

初期、駅前広場は鉄道側で確保・整備していたが（東京駅丸の内や大阪駅など）鉄道の経営が苦しくなるにつれ徐々に鉄道管理部分が減少する傾向にあり、今日ではその大半を都市側の経費で確保し道路として管理している。岐阜ではその経過から未だJR東海の管理となっている用地が多い。今はこうした用地の帰属も含めて関係者による協議が進められているが、先月、図－2のような機能配置イメージが市から提起され、その具体化に向けて広く市民を巻き込んだ議論が行われだした。（詳細はhttp://www.city.gifu.gifu.jp/myweb/　参照）

新しい都市拠点の中の広場でしかもかなりの面積を確保することが出来そうだとすればそこに単なる交通機能だけを期待するのではなく、より複合的な地域活性化機能を期待する声も大きく「杜の中の駅」というキャッチフレーズの下、「路面電車をシンボルとする広場」、「バスルートの再編成を実現する広場」、「様々な活動が展開されるイベント空間としての広場」など交通機能だけでなく、環境機能やにぎわい機能を有

する緑豊かな都心の広場として再生する計画イメージが大きく膨らんでくる。

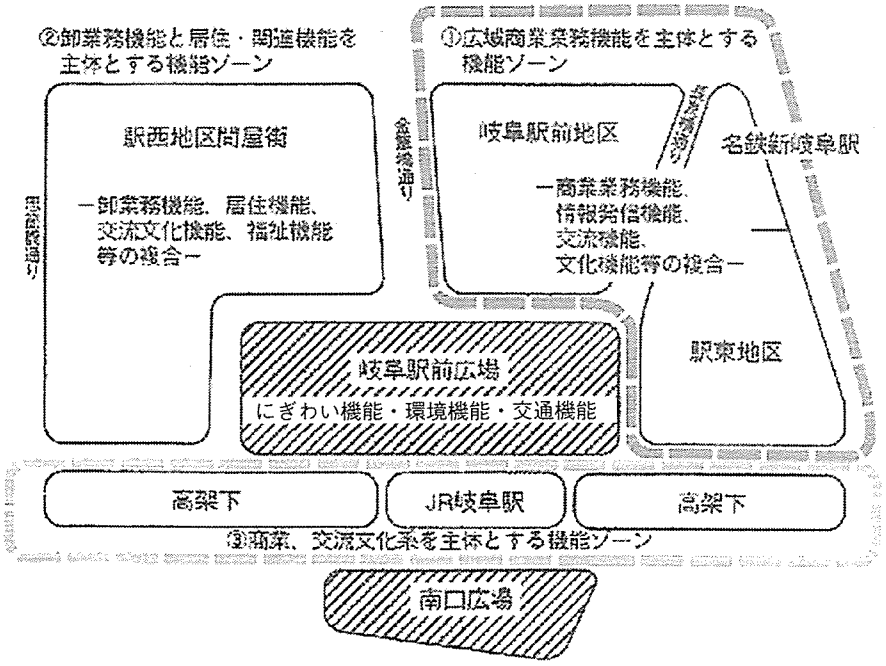
これまでも、JR岐阜駅と名鉄新岐阜駅との関係をどのように考えるのか、将来のバスルートはどのように考えるべきなのか、新岐阜駅前の道路空間をどのように利用するべきなのか（この道路には非常に多くのバスが走行しており、路面電車もその中央部に入っているが路面電車については停留所のスペースすらない）、路面電車をどのようにして駅前広場に導入することができるか、タクシー乗り場・駐車場など従来からある交通施設の機能をどのように考えるべきか、駅2階部から出てくる歩行者をスムーズに市街地へ呼び込むデッキの規模・方向性はどのようにあるべきか等の議論が延々と行われてきた。そして今「杜の中の賑わいの広場」の視点を中心に議論が集約されつつある。

＜今後の動きについて＞

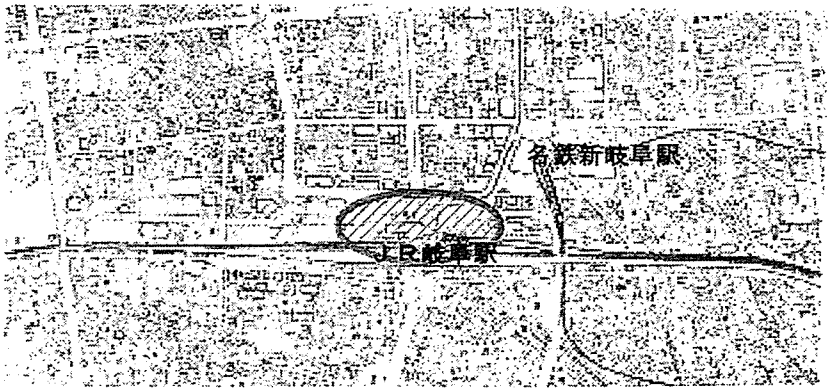
この夏、市民を巻き込んだワークショップやシンポジウムが多数行われた。さまざまなアイデアも寄せられている。しかしそもそも広場だけで活性化ができると思うのは無理がある。周辺の活動が活性化しない中で如何にデザインしようが限界がある。広場に何を期待するのか、広場に何が提供できるのか、広場と如何に連携できるのか、こうした周辺部からの要求と提案が結果として良い広場を生み出すことに繋がる。空間的な様々な工夫によって美しく印象的で驚きと利便性に富んだ広場を創り出す事に異論はないが、活性化施設としての広場は空間デザインだけでは不十分である。街づくりの一部としてとらえる姿勢が求められている。

広場の設計は、実際にはJR東海との協議、交通警察との協議、名鉄・バス会社・タクシー会社との協議など目に見えにくい非常に高い壁を一つ一つクリアしなければ現実のものとはならない。それぞれに言い分がある。岐阜の駅前広場は面積だけ見ると極めて大きな広場と見ることができるが、バス、路面電車、歩行者など様々な交通手段の言い分を全て空間ニーズとして受け入れれば制約条件も多い。一筋縄では行かない。

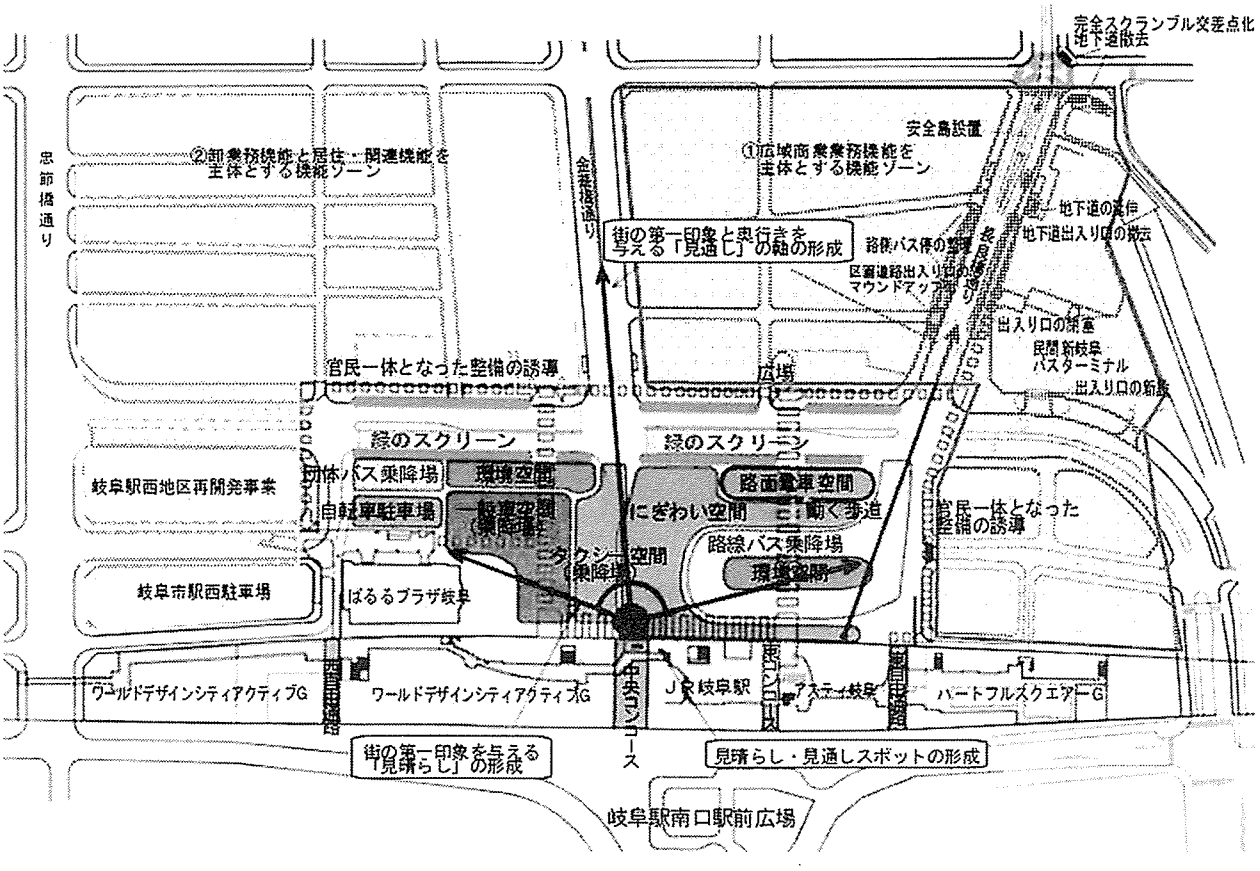
上空から見た広場の絵柄の見栄えにだけこだわるような「誤ったデザイン志向」は広場の本質を見誤らせる。広場を取り巻く人々・社会を動かす「本物のデザイナー」の力量が問われている。



岐阜駅周辺整備の方針



岐阜駅北口駅前広場の位置



駅前広場空間構成の方針

特集　3

ぎふまちづくりセンター

西村　貢
NISHIMURA MITSUGU
ぎふまちづくりセンター理事長（岐阜大学）

「ぎふまちづくりセンター」は、昨年４月に岐阜市中心部に事務所を開設し活動を開始した。このセンターは、行政の外郭団体でもなく、住民のみの組織でもない。住民に加えて行政や企業に大学が連携した組織である。活動の原点は、住民・地域の視点にたって議論し、政策提言し、実際的活動を行うところにある。

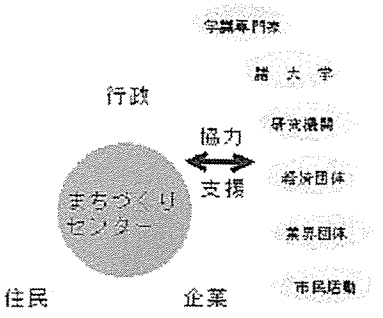
第２の特徴は、岐阜市に事務所を開設しているが、課題を取り上げる視点は都市圏という広域視点（岐阜市を中心とする１７市町村）と特定地区の課題を結びつけて議論し、活動を行うところにある。

なぜ、このような組織形態や活動スタイルにすることにしたのか。それは、岐阜地域の特徴に起因している。つまり、岐阜地域は名古屋市を中心とする東海地域の一角に位置しながら、岐阜市を中心に独自の経済圏・生活圏を構成してきた。近年、その独自性を支えてきたアパレル業界の衰退とともに求心性が弱まってきているが、地方都市圏としての自立性や個性を再構築することができる潜在力はあるように思う。そこで、関係市町村の住民・企業・行政が総力を挙げて新しい地域像を模索する試みが求められている。第２に、大都市圏ではないので特定のテーマに基づき個人が参画するボランティアやＮＰＯの活動がまだ形成途上である。そこで、地縁的住民組織の活性化とともにＮＰＯなどの特定目的活動団体を育成することも地域課題となっている。

このような多様な課題に応えるためには、幅広い住民や企業や行政の参加とともに研究者の参画も欠かせない。

現在、このセンターには、個人会員が４２４名、法人会員　３１社、８自治体、３町内会などが活動に参加しており、平日の午後６時３０分から「まちづくり」に関する多様なテーマで意見交換を行っている。そこでは、市町村合併、都市計画、景観問題、環境問題、福祉問題、子育て支援など約１５の多様なテーマが取り上げられ活発な意見交換が行われている。

１年間の活動を通して、内容がしだいに実際的なものへと変化してきており、問題を根本的に捉えようとする姿勢が強まってきているように思う。参加者に共通しているのは、これからのまちづくりは、地域で生活し、活動する住民や企業に、生活の仕方や活動の仕方を提案し、地域社会のデザインを提案し、提案した都市像を実現するために、それぞれの組織的特徴に応じて参画



し担っていくこと、換言すれば、諸組織が協働する地域内の仕組みを構築することが課題であるという思いである。

このような、会員の活動に支えられながら、センターは３つの柱で今年度の活動は組み立てている。第１の柱は、市民参加型の政策提案活動である。第２の柱は、昨年から取り組んでいる学生によるまちづくり活動や地区まちづくり計画の基礎調査やシンポジウムの開催など具体的で実際的な活動を行うことである。第３の柱は、岐阜地域で活動している町内会・諸団体や行政が抱えている課題を解決するためには、どのようなプロセスが必要なのかを一緒に取り組むことで経験を広めることである。

つまり、「ぎふまちづくりセンター」は、理論センターという側面と、ボランティア・ＮＰＯ・町内会などの活動を支援する中間組織という側面をもちつつ、実際のまちづくりにも取り組むという性格を持っている特有な組織である。

今後は、それぞれの地区やテーマで会員が自ら活動組織を結成していくようになるだろう。その段階になれば、このセンターはそれぞれの団体の連絡協議会的な機能と理論センター的機能へと純化したものに組織替えしていくことになるだろう。その時点で、このセンターの社会的意義があると地域住民に認められれば、中間組織という特徴を持つＮＰＯとして成長していくことになるだろう。

こうした時が早く来ることを期待しながら、現在は地域で自ら実践してまちづくりの機関車の役割を果たしつつ、他方で、地域づくりに取り組もうとする個人・団体の養成機関・助産婦の役割を果たすために奮闘しているのが現状である。

特集　4

岐阜を自然と文化の深みのあるまちに（対談）

細江　茂光
HOSOE SHIGEMITSU
岐阜市長

松村　みち子
MATSUMURA MICHIKO
タウンクリエイター

岐阜の素晴らしさについて

松村　きょうはお忙しい市長に、JUDI（都市環境デザイン会議）の企画にお時間を割いていただきありがとうございます。

JUDIでは、本年度の共通テーマとして「人と場の活性化」を掲げまして、対象都市を選んで紙面づくりをしようということになりました。内容について議論を深めているうちに、近田玲子さんが「いま岐阜が面白いわよ」と力説されたのです。近田さんは、岐阜市で都市景観審議会委員をされていますし「あかりフェスタGIFU」などにもかかわってらっしゃるので、岐阜市のことをよくご存じなのです。それに、JUDI創設時からのメンバーである松谷春敏さんも市の助役に就いていらっしゃいます。それでトップバッターとして岐阜市に登場願うことになりました。幸い私も岐阜市に１０年ほど住み、市の四次総の策定には委員として携わらせていただきましたので、今回の対談を担当させていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

最初に市長は今年の２月２５日付けで第１６代岐阜市長に就任されたばかりですね。就任されて日も浅いですし、行政のトップとしてよりは、むしろ市長個人の岐阜市に対する熱い思いをお聞かせいただければと思っております。

岐阜市の素晴らしさはどんなところにあると思われますか。

細江　岐阜の素晴らしさは、箱庭性があることですね。ザルツブルク音楽祭で知られるオーストリアのザルツブルクに近い箱庭性です。あのまちに出かけて大変感動したのですが、古い教会もあるし、歴史的な街並みも残っているし、緑豊かな丘もあり、川もある。まち全体がコンパクトで本当に箱庭のようなんです。

岐阜もまちの中に金華山と長良川という素晴らしい財産があります。岐阜市のシンボルでもある金華山は標高３２９ｍで、全山を手つかずの原生林が覆っているんですよ。山頂には信長ゆかりの岐阜城があり、山麓には岐阜公園があります。公園内には信長居城跡が整備されていまして、この辺り一帯は岐阜市の中でも眺めの良い観光ゾーンでもあるのです。そして清流長良川で行われている鵜飼いはちょうど今年で１３００年の歴史を誇っています。長良橋下の鵜飼観覧船事務所から西へ続く街並みは、映画のロケにも使われたほど味わいがありますよ。

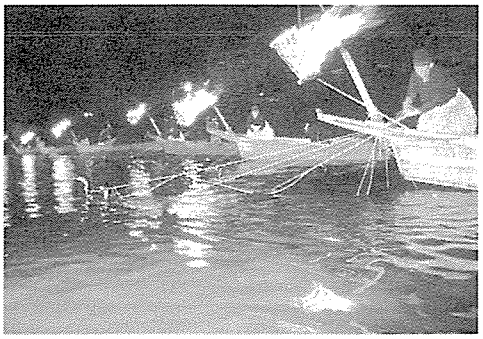
松村　その一方で、長良川国際会議場のような新しい施設もあるんですね。

細江　岐阜県と市が力を合わせて整備した世界イベント村ぎふですね。

松村　長良川北岸の「ぎふ中部未来博」の会場跡地を中心に、長良川国際会議場、未来会館、岐阜メモリアルセンター、長良川スポーツプラザの４つの施設を集めたエリアを「世界イベント村」と名づけたものですね。オープンしたのは１９９５年９月で、私は中日新聞と東京新聞紙上で岐阜県の梶原拓知事とPRのための対談をさせていただきました。各種イベントに活用されているようですね。

ところで、このような恵まれた自然と歴史のある岐阜市をもっと元気なまちにするには、どうしたら良いでしょうか。市長のお考えをお聞かせください。

岐阜城（写真提供：岐阜市役所）



鵜飼い（写真提供：岐阜市役所）

まちを元気にする３つの切り口

細江　私は岐阜市を「日本一元気な県都」にしたいと思っていますが、その際に岐阜のこの素晴らしい環境を残しながら活性化をどうするか。絶対に環境に負荷をかけないまま産業振興を図っていくというのが大命題ですね。

具体的なことは、松村さんにも委員になっていただいている「民間活力戦略会議」において、産業ビジョンなどを議論していきたいと考えています。

私は３つほど切り口があるのではと思っているんですよ。１つは「水」を生かしたまちづくりです。岐阜市を流れる長良川と豊富な地下水を産業や環境に生かし、水辺を大切にしたまちづくりを心がけたいと思っています。アメリカテキサス州のサンアントニオ市のようにできればいいんですが。

松村　あそこのパセオ・デル・リオと呼ばれているリバー・ウォークは本当にステキですよね。まちの真ん中のリゾート空間ですね。

細江　プロムナード沿いにレストランや店舗が並んでいて、川の流れを見ながら食事やショッピングや散策ができますしね。近くにはアラモの砦のような有名な観光資源もありますし。都心部を流れる川をあんな風に水辺に親しめる空間にした発想は見事としか言いようがないですね。

松村　あんな風な形にしたきっかけをつくったのは女性だったそうですよ。

細江　そうなんですか？

松村　はい。集中豪雨があって、サンアントニオ川の堤防を越えて洪水が都心部を襲ったんだそうです。市当局は馬蹄形になっているところを埋め立てて道路にしようとしたんですね。それを知った女性たちがその案に反対したのがきっかけで、自然のままの水路を生かすプロムナードづくりが実現したのだそうです。あちらでいただいた資料にそう書いてありました。

細江　岐阜市民は水辺を大切にしていないのではないかと感じますよ。柳ケ瀬にも素晴らしい水辺空間が整備されているんですよ。アクアージュというんですが。せっかくあんな良い空間があるのに、先だって見にいったら、誰も歩いていないし、お店も商売をしていない。すっかりうらびれていました。

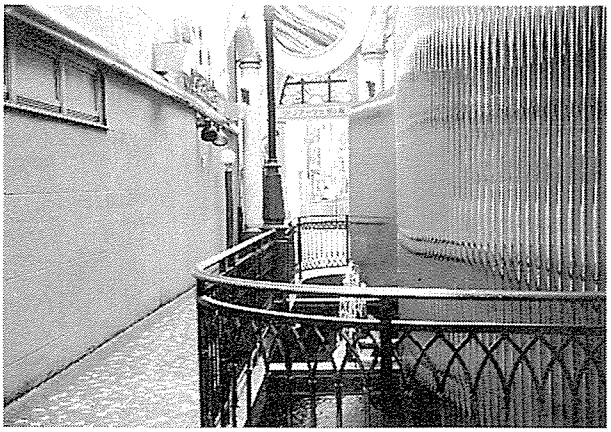
松村　残念ですね。お店の方も、大半は郊外に家を持って通っているだけなので、お客が少ないと前倒しで店を閉めてしまうんですね。やはりそこに住んでいないと、愛着がわかないのかもしれません。

細江　アクアージュは幅が狭いので、水辺に下りられないことも問題かもしれない。水に親しむ構造になっていないんですね。何か工夫をしたいと思っています。

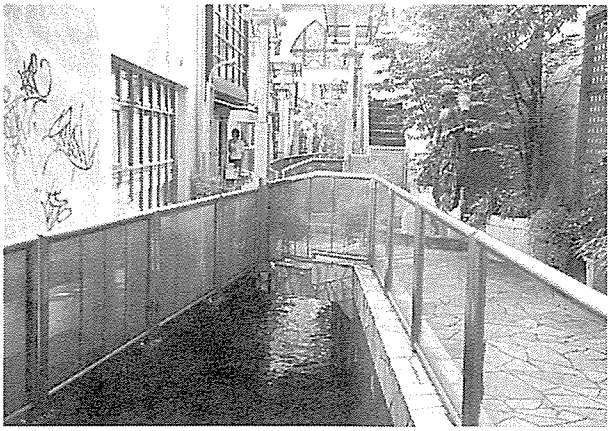
２つめですけど、岐阜市は箱庭性が高いので、歩きを中心にした文化ということを心がけたい。なぜかと申しますと、岐阜市はどこへ行っても平らなんです。それに、あちこちに歴史や文化があって歩いているといろいろな発見があるんです。世界中、岐阜市ほど歩くのに適したまちは見当たらないと思っています。

松村　大賛成ですね。特にまちの中心は歩いてショッピングが楽しめるにぎわい空間でないと。

細江　歩きを中心にした文化にするには、これまでのような車中心のみちづくりの視点を歩行者優先に変えなければと思うんですね。高齢者などの弱者が、安心して歩けて、疲れたら腰掛けられるベンチが歩道にあるとか、街並みに木陰となる街路樹があ



アクアージュ柳ヶ瀬の風景　その１



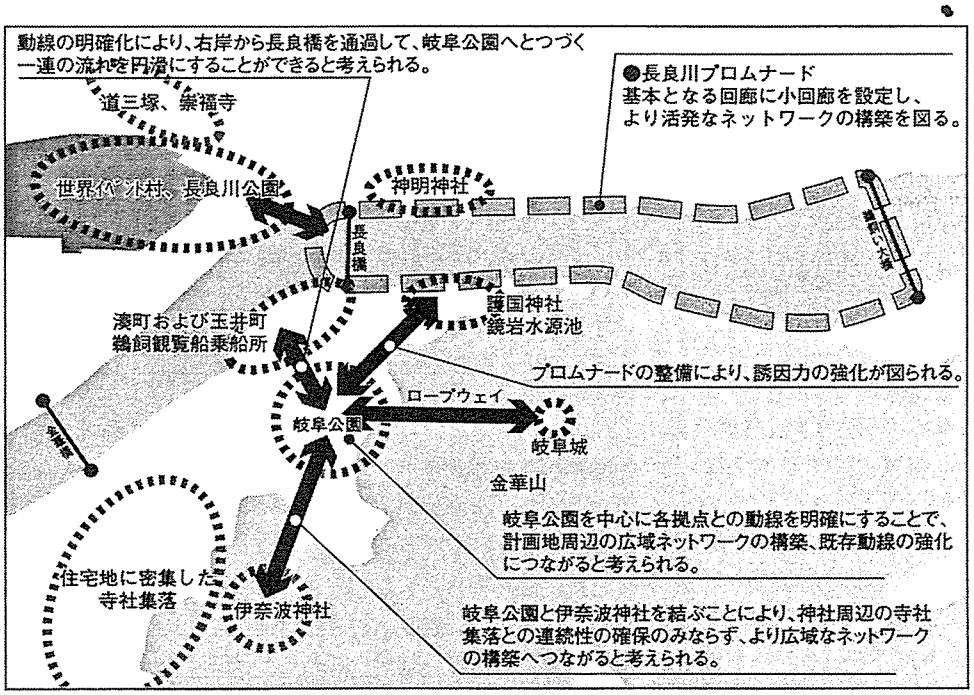
アクアージュ柳ヶ瀬の風景　その２

建設中の鵜飼い大橋

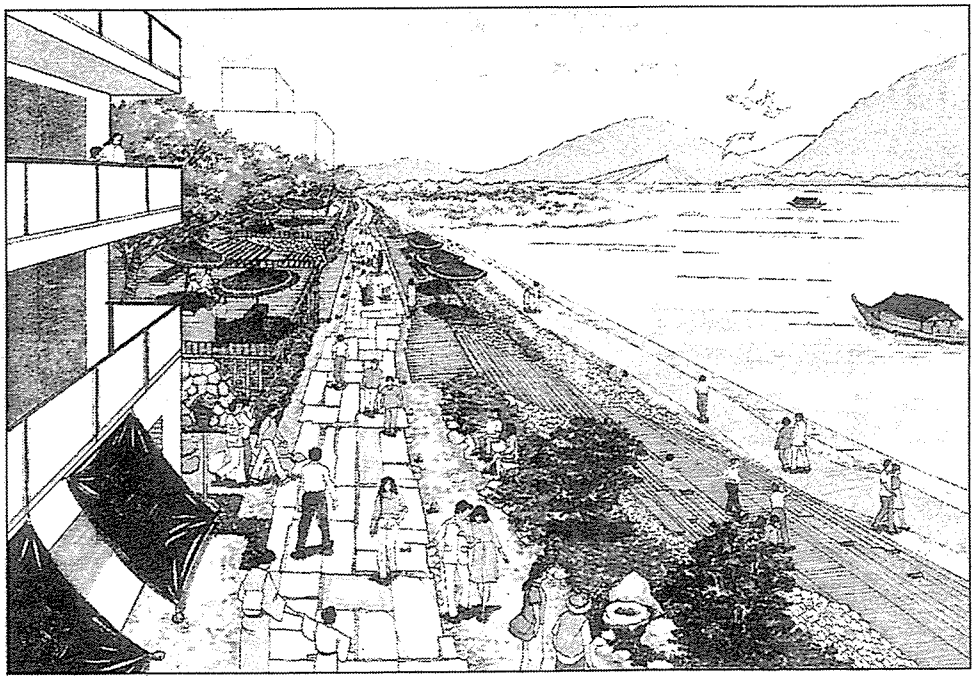
るとか。

経済を活性化させるために観光都市として生きようとすれば、岐阜市内に点在している観光資源をつなげて、もう少し回遊性をもたせていく作業が必要だろうと思っています。今、庁内で、歩行者ネットワークの企画づくりの作業をやってもらっているところです。

長良橋の上流に建設中の鵜飼い大橋は来年完成して環状道路が全通するんですよ。そうすると車の流れが変わると思うので、



長良川プロムナード計画の計画地周辺のネットワーク概念図



長良川プロムナード　イメージ図（パンフレットより）

まち中を走る車が少しは減るのではないかと期待しているんですが。

松村　鵜飼い大橋の景観の検討委員もさせていただいたんですよ。もうじき完成なんですか・・　ヨーロッパのまちのように、中心市街地はトランジットモールにして、公共交通以外の車を締め出すことができればいいんですけれど。

細江　車のスピードが出ない仕掛けも必要ですね。

松村　イメージハンプを造ったり狭さくにしたりとか手法はいろいろあります。

細江　そうして、人と車が共生できるような歩く文化を大事にしたまちにしたいというのが２つめの切り口です。

３つめは、スローライフなまちをめざそうということです。活性化を進めることは大事ですが、時間の流れを早めて、歩くのに前につんのめって走るように歩かなければならないような状況を作っては何もならないです。時間の流れがゆったりして、時空間の広がりを感じられるようなまちであり続けたい。味わいながら人生を生きていけるようなまちをめざしたいですね。

高齢者と若者の共生

松村　先日、岐阜新聞に、若者でまちおこしをする取り組みについての記事が載ってました。知り合いとも話したんですが、高齢社会になっていますよね。私の世代を含めた団塊の世代がこれから高齢化していくわけですし、これまでも時代の流れをリードしてきたのはこの世代だと思うんです。ですから、岐阜市はむしろ高齢になっても住み続けたいと思うようなまち。落ち着きがあって大人の文化の感じられるまちをめざしたほうが良いのではないかな、と思うんですが。

柳ヶ瀬

細江　私の両親はいま８６歳と８０歳で、旧市街地に住んでいましてね。母は８０歳なんですが、食事をつくると近所におすそ分けに行くんですよ。隣の９１歳のおばあちゃんにおかずを届けにいくんです。まだここでは高齢者同士が助け合って暮らしているんですね。でも若者がいなくなって完全に高齢者だけになってしまうというのは少しいびつではないかと思います。ときどき母親をショッピングセンターに連れていくんですが、最初に目が行くのがちっちゃな子どもなんですよ。乳母車を一生懸命のぞき込みましてね。曾孫ぐらいの赤ちゃんを見て、本当に嬉しそうにしています。ですから健康で長生きできるようにすることは大事だが、高齢者ばかりになってしまうのではなくて、子どもや若者と共生していくようにしないと。

でもこのまま放っておくと、旧市街地はそのうち陸の孤島になってしまいますね。両親が住んでいる住まいの周りからは、お店がどんどんなくなってます。魚屋さんはなくなる、八百屋さんもなくなる、コンビニまでなくなってます。

ただ若者がこのままの岐阜に来て、住んでくれるかというと、むつかしいですね。まちの中に若者が集まる機能をつくらないと。たとえば新しい服を買ったとして、鏡の前で見ているだけではだめでね。それを着た姿をみんなに見せたい、視線を浴びたいという気持ちがある。そういう場ですね。ファッション性のある街角に若者が集う。そのことによってマーケットも存在する。そういう場づくりが大事ですね。これは行政だけでできるものではない。商店街もきっかけを作り、若者たちの参画意識も求められますね。

松村　まちに若者が集うという意味では、大学を郊外に移転させるのも問題がありますね。それで静岡文化芸術大学は浜松市の中心部に立地させたとお聞きしました。木村尚三郎さんが学長をされてらっしゃいます。

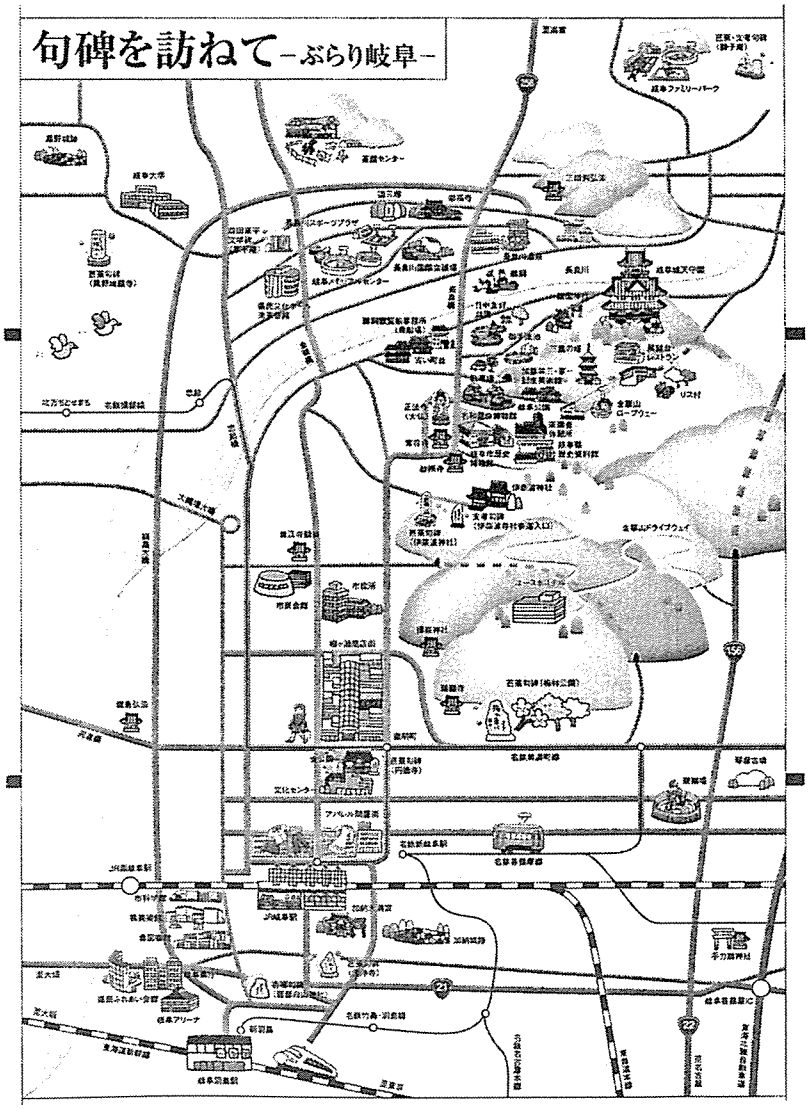
細江　私も岐大医学部の跡地の活用が岐阜市活性化のポイントと考えています。大学を含む産官学の拠点にすることも一案ではないかと思っています。今、いろいろな場で、幅広く議論をしているところです。

岐阜県のほうもソフトピアジャパンとかVRテクノジャパンなどをつくることで新産業育成を図っていますので、そのような特殊な分野の人材を輩出していく学園機能が求められると思うんですよ。大学には行

政に対するシンクタンク機能を持たせることが大事ではないかと思うのです。

あるいは岐阜には少し娯楽性が足りないので、エンターティメント性も必要かなと。吉本興業に来てもらってコメディアンを養成するとか。なぜかと言うと、岐阜は落語の祖と言われる「安楽庵策伝」和尚のゆかりの地なんですよ。

柳ヶ瀬の中心にありながら閉店した量販店



「句碑を訪ねて」のマップの表紙
（岐阜市観光コンベンション課作成）

これからの時代はスロライフーで

松村　ファストフードに対抗してスローフードという考え方が出てきていますが、先ほどのスローライフについて、もう少し詳しくお話しいただけませんか。

細江　今スロータウンというコンセプトが注目されていましてね。「スロータウン連盟」という全国組織が発足したそうで、掛川市では今年１１月をスローライフ月間として、いろいろな取り組みをするようです。私も個人的に大変興味を持っています。

これからはスピード社会ではなくて、スロー社会で、歩きの文化ですね。

岐阜市の金華山と長良川周辺には、松尾芭蕉を始めとする俳人の句碑がたくさんあるんですよ。岐阜市観光コンベンション課で作成した『句碑を訪ねて』という見開きのマップがあります。このマップを片手に、ぶらり歩きながら、ぜひこれらの句碑を訪ねてみてほしいですね。なかなか行き方がわからなくて、そこを車がビュンビュン走っているんでね。京都で若い女性が地図を片手に歩きながら町を回っているでしょう。岐阜もぜひあんな感じで、歩きながら、自然と文化の深みを味わえるまちにしたいですね。

松村　JRの高架下に生涯学習の拠点施設の「ハートフルスクエアーG」もオープンしましたし、駅前広場の再整備や周辺の再開発がいよいよ始まります。市長さんのリードで岐阜市は大きく変わろうとしているなと感じています。きょうは貴重なお話を本当にありがとうございました。

＊細江市長は岐阜市の生まれで高校卒業まで岐阜市に住み、大学卒業後、民間企業で１２年間の海外生活を送られたという経歴の持ち主。岐阜市に民間出身の市長が誕生したというニュースを聞いたとき、私は市の職員の意識改革も大きな課題だろうという感想を抱いた。２００２年5月１４日に発足した「岐阜市民間活力戦略会議」（委員長：水谷研治中京大学教授）は、行政施策や運営に民間の視点を反映させようというのがねらい。メンバーの一員として、岐阜市が「日本一元気な県都」になってほしいと私も切望している。

■代表幹事会報告

丸茂 弘幸
MARUMO HIROYUKI
代表幹事

関西大学

参加者全員に小論文を義務付け

「JUDI中国・関西ブロック合同セミナー」報告

代表幹事　丸茂弘幸

この7月6日(土)・7日(日)に倉敷市で開催された「JUDI中国・関西ブロック合同セミナー」に出席する機会を得た。両ブロックの合同セミナーは98年7月に尾道市で開かれたのに次いで２回目である。参加者は受付段階で73名、このうちJUDI会員が30名、会員外の一般参加者が43名であった。会員の参加者の内訳は、関西14、中国10、四国2、中部1、そして本部から3名であった。会員外の参加者の中では、地元企業である藤木工務店10、倉敷市役所8が目立ったほか、まちづくりグループ(蔵おこし湧々)などのボランティア・グループ、倉敷CATVなどのマスコミ関係者、岡山県立大学、倉敷商工会議所の関係者など、大半は地元倉敷、岡山の方々であった。

セミナーのテーマは「古の中のアヴァンギャルディズム」というタイトルに集約されているように、古いものの中に斬新な前衛性の契機を見出そうというものである。このテーマに沿って、一日目は、古民家再生工房で活躍する建築家の樽村　徹氏、倉敷の重文建築物の修復を多数手がけてこられた左官工の上山春男氏、二日目は、元後楽園園長で樹木医の山本利幸氏、倉敷市助役の中戸哲生氏から、それぞれ非常に中身の濃いレクチャーをして頂き、また参加者との間で熱心な質疑応答が行なわれた。

レクチャーだけではなく、美観地区の入口近くにある市所有の古民家、立派な長屋門を持つ東大橋家の活用法を、参加者全員に問うという形式をとったところに、今回のセミナーの大きな特徴があった。全員に提出を義務付けられた小論文は既に整理が終わり、10月下旬に新聞社等の立ち会う公開の場で正式に倉敷市に提出される運びになっていると聞く。

樽村氏等の手がけられた古民家再生レストラン＜倉Pura・香里＞での懇親会はまたワーキングディナーと銘打たれていたように、東大橋家の活用法はもとより、美観地区周辺の景観形成のあり方、衰退著しい中心市街地の活性化対策、等々、さまざまな議論で大いに盛り上がっていた。

私自身は、大橋家や大原家に代表されるような昔の旦那衆、今日の地場産業、地元企業の経営者や商店主等の、芸術や生活文化に対する高度で豊かなセンス、ハンナ・アーレントのいう〈洗練された常識人〉達が、本当に倉敷の街の文化を支えてきたのだ、ということを改めて印象づけられた二日間であった。

最後に、今回の合同セミナーを中心になって企画推進されてきた中国ブロックの長沼眞智子氏、関西ブロックの山本茂氏をはじめ、このセミナーに尽力され成功に導かれた関係者の皆さんに心から敬意を表します。

倉敷で都市計画専門家セミナー

東大橋家どう活用

情報センターや行事空間

整備アイデア次々

東大橋家の活用法などについて議論するセミナー参加者

委員会活動報告

■事業委員会報告

井上　正良
INOUE MASAYOSHI

㈱アーバンデザインコンサルタント

モニターメッセの報告

モニターメッセは今年で１０年目を迎えました。本年も例年通りの方式で１０社以上の企業のプレゼンテーションと会員の熱心なアドバイスにより、会員諸氏の助言集である実施結果報告書の企業への提供とある程度の事業収入を得て無事終了しました。改めて、参加頂いた会員の皆様にお礼申し上げます。

このようにモニターメッセが毎年多数の企業と会員の参加を得てJUDIの財政にも寄与出来てきたのは、少しずつ改良を加えてきたとは言え、最初にこのような仕組みを考え出した会員達の先見性と、そのような交流や協働に期待してきた景観材メーカー等企業のベンチャー精神であったと考えます。

しかし、私が担当して４年目になりますが、特にここ２年間なんとなく停滞感に捕われています。それは参加企業募集が難しくなってきたことが最も大きいのですが、メッセ会場のやり取りにも強く感じています。報告の最後に簡単にこの点に触れてみたいと思います。

去年のやり取りにおいては、″人にやさしい″″ユニバーサルデザイン″等の言葉が安易にコンセプトとして使用されることとその枕詞によって提示された製品との乖離に対しての異議がめだちました。今年のやり取りにおいては、これらのコンセプトの一般化（例えば、法規制としてのマニュアル化等）へ対応した細部の技術的改良への疑問と″ものづくり″の姿勢に対する異議と新しい期待が感じられました。そして、全体を通じて、指摘する側にどうしようもない無力感が漂っていました。一方、企業側からは、メッセ後の懇談会で、もっと我々の技術開発を応援してくれる発言でないと困るという要望が出てきました。

来年のメッセの前にはこれらの状況を踏まえて、我々と企業有志の間でメッセのあり方について懇談をすることを考えています。

１０年前に比べても、都市環境は猛烈なスピードで変化し新しく生まれています。しかし、どうも我々都市環境デザイナーや旧来の景観材メーカー等企業と関係ないところで環境がどんどん変化しているように感じています。懇談会では、どのようにして都市環境に関わっていけるようにしていくかという議論を通じて再び、先見性とベンチャー精神を模索していけたら幸いだと考えています。

■研修研究委員会報告

松本　篤
MATSUMOTO ATSUSHI

アトリエ ＨＯＲ

研修研究委員会活動報告

今年度は会員向けセミナーを模様替えし、小規模な連続セミナーとして２種類の新企画を準備、開催しています。

・都市環境デザイン連続セミナー／UDC(都市づくりパブリックデザインセンター)と共催

第１回は９月４日にタイセイ総合研究所の蕪木伸一さんを講師に迎え、「建設産業における環境共生プロジェクトの展望」と題して事例を取り上げながら環境共生技術の新しい方向性についてご紹介を頂きました。JUDIおよびUDCの会員合計２５名の参加を得、講演後、意見交換の懇親会を実施致しました。今後も特定のテーマについて、同じ会場（UDC会議室)、同様の規模で連続して開催してゆくこととしております。

・事務所押しかけリレーセミナー

若手会員を中心に５～10名を対象とし、都市環境デザインの各分野で活躍されている方の事務所をめぐりながら、経験豊富な主催者のお話を伺うというセミナーで、本年度４、５回の実施を予定しております。現在ご協力いただく事務所とスケジュールを調整中です。

いずれも講師と間近で意見を交わせる魅力ある企画ですので是非、積極的にご参加ください。

なお、今年度の自治体向け特別講習会は７月に開催、学生向けJUDIセミナーは来春の開催を予定しております。

■国際委員会報告

服部　圭郎
HATTORI KEIROU

㈱三菱総合研究所

都市デザインの仕事をするうえで、イメージを膨らませるのに、顧客とのコミュニケーションを円滑にするために、アイデアを喚起するのに、事例を参考にされる方も多いと思われます。しかし、この事例を収集するのがなかなか大変。特に、その事例が海外であったりすると、気にはなっていても、見にいってチェックする暇はないし、また金もそうそうない（例外の方もいらっしゃるでしょうが)。かといって、その類の本や雑誌を収集して整理するには、またまた時間がないし、オフィスにも空間がない。などとぼやいているJUDI の会員に朗報です。JUDIの国際委員会で、海外の都市デザイン事例のデータベースを会員皆様の代わりに作成しました。国際委員会各委員が今まで、汗をたらして長年にわたって収集してきた事例情報を一挙、紹介してしまうという大盤振る舞い。プロジェクトの概要の情報を含めて、キープレイヤーや地理的情報、行き方などの便利情報などが整理されています。さらに、会員の方々からの意見も反映できる工夫もされていますので、新しい情報や多角的な視点からの情報などが段々と付け加えられるようになります。まさに、そういう意味では進化していくデータベース。JUDIの会員がつくりあげていくデータベースです。キーワードサーチもできるなど、使い勝手もまずまず。現時点では、まだデータ数が少ないですが、これから徐々に増強していく計画です。是非とも、一度ご覧下さい。JUDIの会員用ホームページで「事例集」をクリックして下さい。
ホームページアドレスはhttp://www.judi.gr.jpです。

JUDIアーバンデザインREPORT

■ プロジェクト名 : Stuttgart

国名:
Germany
州名:
Baden-Württemberg
都市名:
Stuttgart
地区名:

キープレーヤー:
N/A
プロジェクト概要:
シュツットガルト市は、人口約56万人、南ドイツの産業都市である。同市はすり鉢状の盆地のため、冬季の冷たい風を防ぐのには好都合であったが、産業の発展により大気汚染が深刻化し、特に冬季の安定した大気が逆転層をつくり、盆地内にスモッグが停留するようになった。市では大気汚染だけではなく、気候条件や気候風土の調査研究を実施し、大気や水の流れの制御を都市計画の中に組み込み、都市に「呼吸」させることとした。1980年代には風向、風量、風速などをさらに調査し、新鮮で清浄な空気の流れを都心部に導入するために、道路、公園、森林、建物などの再配置を含めた都市整備計画が考えられた。その結果、以下の施策を行うことになった。・ 都心に近い丘陵部では、緑の保全・導入、建替以外の建築の禁止、・ 都市では場所の特性に応じて建築物は5階建を上限とした、・ 風の通り道となるパークウェイのために約100mの幅を確保するように整備し、森林に抜け穴をつくり、逆に植林によって新鮮で冷たい空気のたまる空気のダムをつくり、空気の流れをコントロールした。これらの施策を実施したことにより、都心部に新鮮な空気を流れ込ませることに成功し、都心部の汚染された空気の拡散は改善され、夏期のヒートアイランド現象の緩和にも寄与した。
関連情報:
シュツットガルト市に限らず、ドイツでは都市計画の中で緑地を計画的に整備するなど、市街地の冷却効果や、清浄な空気を都心に導きいれる施策を広く実施している。
関連リンク:

image 1:

image 2:

図面:

地図 1:

カテゴリー:
都市
会員の意見:

行き方:
シュツットガルト市はフランクフルトの中間にあり、フランクフルト鉄道でほぼ1時間30分。
データ作成日:
4.10.2001
データ作成者:
服部圭郎

公募制プロジェクト募集！！！

文責；代表幹事・八木健一

去る７月１３日の第１２期定期総会において、各地方ブロックの活動を活性化することを目的とする「公募制プロジェクト」の創設が承認されました。

これは、ブロック活動に競争的な環境を導入することによって、地方ブロックの会員規模に起因する較差を是正しつつ、ブロック活動にインセンティブを与えるもので、従来のブロック予算とは別に、地方ブロックが独自に企画立案するすぐれたプロジェクトに対して、その遂行を支援するための予算を配分するものです。

当初締切り予定の８月末までには応募がありませんので、９月１３日の代表幹事会で、応募締切りを１１月末まで延期することにしました。本会の活性化のために有意義なプロジェクトの応募を期待しております。

応 募 要 綱

１）公募の対象となるプロジェクト

都市環境デザインに関わるものであれば特に内容を限定することはありません。ただし、業務的なプロジェクトに関連するものは対象としません。

２）応募資格

JUDI 正会員１名（ブロック幹事でなくても可）を代表者とし、各地方ブロック単位もしくは複数のブロックの連携で提案してください。

３）プロジェクトの期間

原則として１年間を遂行期間としますが、プロジェクトの性格によっては、複数年度にわたるものも可とします。ただし、複数年度にわたる場合は、年度毎に継続の応募を提出していただきます。

４）応募書類

書式は任意としますが、必ず以下の事項について記載してください。

提出方法は郵送、ファックス、E-mail のいずれでも構いませんが、締切り日の午後５時までに「都市環境デザイン会議・事務局」必着とします。

①プロジェクトの意義・目的と期待される成果

②プロジェクト遂行の方法と作業工程

③プロジェクト遂行の体制

④予算の使途と金額

⑤その他当該プロジェクトに関係する追記事項等

５）予算および公募件数

本年度は１件あたり３０万円程度の予算とし、公募件数は２件までとします。

６）応募締切りおよび審査

今年度に限り、１１月３０日（土）を応募締切りとし、１２月１３日（金）の代表幹事会において審査し、その結果を１６日（月）に事務局から各応募者に通知します。

７）成果の公表

プロジェクトの成果については、簡易な報告書の提出を求めるとともに、機関誌[JUDI]に公表することを義務付けるものとします。

また来期の定例総会までに予算執行にかかわる経理関係書類の提出を求めます。

事務局より

1．新会員の紹介

2002年7月1日～8月31日の入会者は下記の通りです。（入会順、敬称略）

8月31日現在の会員数は、497名です。

正会員氏名	勤　務　先（ﾌﾞﾛｯｸ）
林　正樹	ディックスペースアメニティ（株）（関東）
斎藤　秀也	三光（株）（関東）

準会員氏名	勤　務　先（ﾌﾞﾛｯｸ）
横山　公一	（株）プランニングネットワーク（関東）

学生会員氏名	学　校　名（ﾌﾞﾛｯｸ）
富賀見　佳	京都造形芸術大学大学院（関西）

2．退会者（2002年7～8月）

中島秋平、水野政純、宮本準司（敬称略）

3．住所変更等（敬称略）

氏　名	変　更　内　容（新）
清水　泰博	東京芸術大学美術学部デザイン科 〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8 Tel.03-5685-7605　Fax.03-5685-7774
九後　順子	阪急電鉄（株）文化・技術研究所 〒530-8389 大阪市北区芝田1-16-1 Tel.06-6373-5346　Fax.06-6373-5347
白石　高啓	ゆにて設計事務所 〒770-0855　徳島市新蔵町2-41 Tel&Fax.088-652-3585
土井　勉	阪急電鉄（株）文化・技術研究所 〒530-8389 大阪市北区芝田1-16-1 Tel.06-6373-5346　Fax.06-6373-5347

編集後記

今期のJUDIの特集テーマは「人と場の活性化」である。これを年間共通テーマとし各号で対象都市について、担当編集員が調査研究し、また地元関係者らとシンポジウム等を開き、客観、主観的な論文形式に頼らない、現場の生の声を交えたアクティブな紙面づくりを行うという、初めての試みを、まずは岐阜市から始めることになった。

地元岐阜で活動を行っている松村氏が中心となり、「市民参加型の街づくり」についてレポートをまとめた。

私も商店街環境整備事業などで、地元住民と行政との間の調整役を行う場面が多く、行政の基本姿勢としての「市民参加型の街づくり」の昨今の実情を鑑みると、市民側の問題意識のレベルの低さや、行政サイドの未だゾーニング手法による地区開発的な発想や補助金対応型プロジェクトの推進に留まるなど、真の市民参加型に踏込めていない現状があることに疑問を持っていた。所謂、街づくりに参加したいのだが、その仕方を市民の側も指導すべき行政の側も本当のところ分かっていないのである。参加機会やきっかけがあっても、それ以上踏込めない、調整役の不在などで事業自体のとん挫等、様々な根本的なところでは、まだまだ問題が残っている。

井の中の蛙状態になって、自分たちの街の魅力さえ気づいていない地元市民の意識レベルの認識度調査からまずは始まり、その向上に最善を尽すべきである。それには行政自らの、どのようにかじ取りをし、啓蒙指導を行っていくか、研究や教育が必要である。その上で市民参加のきっかけを仕掛け、うまく市民を乗せていくやりかたが必要ではないかと考える。行政にそこのところの手法が未だ確立していないことが大きな問題なのではないかと感じた。さて岐阜市ではどうであったのだろうか。

（白濱　力）

岐阜市では、都市景観に駅周辺整備に文化イベント（あかりフェスタ GIFU）に戦略会議にと、JUDI の会員が様々な場面で都市づくりに参画しています。中でもJUDI創設時からの会員である松谷春敏さんが、現在岐阜市の助役に就任しているという事実は特筆すべき事柄でしょう。今回の企画ではみなさんに大変助けていただきました。心より御礼申し上げます。（松村　みち子）

広報・出版委員会

澤木　俊冏　　石崎　均
土田　旭　　伊藤　光造
近田　玲子　　清水　泰博
菅　孝能　　河本　一行
中嶋　猛夫　　森川　稔
櫻井　淳　　横山あおい
松村みち子　　吉田　慎悟
白濱　力　　作山　康